

編集後記

戦後70年を迎える2015年は、多くの激動的な事件から始まりました。とりわけ、パリのシャルリ・エブド襲撃事件や、「イスラム国」による日本人人質殺害事件は、現代の社会における暴力の構造の複雑さを考えさせる事件でした。このような時期こそ、情緒的な反応や扇動的な言動に流されず、テロルのような暴力を生み出した世界の構造的矛盾に目を向け、その解決に向けて、事実にもとづく冷静で分析的な思考を行うことが必要でしょう。国際平和ミュージアムでは、2015年度に平和研究センターを開設する予定ですが、衝撃的な事件のつづく時代だからこそ、「研究」という形で多くの叢知を結集し、世界を覆う戦争やテロルの暴力を阻止するための粘り強い思考の場を生み出したいと考えています。

今号では、水島朝穂先生に巻頭論文をご執筆いただきました。過去の戦時体制を振り返り、戦争と国家権力について批判的な反省にもとづく研究を掲載することで、現在起こりつつあること、これから起こるかもしれないことを考える歴史的な平和研究の可能性を提示できたと思います。そして、そのような過去の研究にもとづいてこそ、私たちが今なすべきことも浮かび上がってくるように思われます。現代の問題が過去の単純な反復ではないにせよ、歴史から学ぶことで、予測のつかない未来への確かな視点を築くという記憶の効力を大切にしたいものです。

編集委員長（国際平和ミュージアム副館長） 加國尚志

投稿へのお誘い

- 立命館平和研究—立命館大学国際平和ミュージアム紀要—では、以下にあげるような、広義の平和に関する研究論文又は学術実践報告の投稿を求めます。
 - ・平和に関する学術研究
 - ・平和に関する教育実践報告
 - ・博物館活動
 - ・博学連携
- 種類と分量
掲載記事の種類と分量は、下記のとおりとし、編集委員会で決定、または承認されたものとしします。
フォーマットは40字×30行とします。

①論文	12,000字～40,000字
②資料紹介	4,000字～20,000字
③研究ノート	4,000字～16,000字
④書評	4,000字～8,000字
⑤調査・研究	4,000字～20,000字
⑥実践報告	4,000字～20,000字
⑦研究展望	4,000字～12,000字
⑧時評・コラム	4,000字～6,000字
- 言語
原則として日本語、横書き、テキスト形式によるもの。
英文の原稿については、事前に編集委員会にご相談ください。
- スケジュール
7月第1土曜日…原稿応募申込締切り
以下の情報をファックス又は郵送（ファックス書面又は封筒に朱書きで「立命館平和研究」応募と明記すること）
 - ①論文の題名（仮題でも可）、②種類、③日本語要旨、④分量

↓

9月末日…原稿締切り

※受取方法：郵送のみ。封筒に朱書きで「立命館平和研究原稿在中」と明記すること。

※提出物：完成原稿と日本語要旨（200字程度）と英語タイトルと英語要旨（250字程度）を印刷とデジタルデータで提出。

↓

3月上旬…刊行（予定）
- 投稿原稿については、編集委員会が審議し、掲載、一部書き直し、返却（掲載不可）などの結果を原稿締切り後3ヶ月以内に投稿者に連絡します。
- 二重投稿はお断りします。
- 論文に画像を掲載するなど、著作権許諾が必要な記事については投稿者が責任を持って許諾を得ること。
- 備考
原稿料はお出ししません。
掲載原稿1編につき、本誌5部、抜刷りを30部進呈します。
- 原稿提出先・お問合せ先
立命館大学国際平和ミュージアム
立命館平和研究編集委員会
〒603-8577 京都市北区等持院北町56-1
TEL：075-465-8151 FAX：075-465-7899